

日本 300 名山を登頂して

2021 年 2 月 平野貴嗣

私は 22 歳で就職するまで、名古屋市に住んでいた。300 名山の最初の山は、1968 年 8 月（中学 2 年）の家族旅行で行った伊吹山である。次の山は 1969 年 7 月（中学 3 年）の家族旅行で行った乗鞍岳である。この時上高地に宿泊し、河童橋からの穂高連峰を見て感動して、山が好きになった。

初めて計画を立てて行った山は、1974 年 7 月、大学 2 年の時に親友の N 君と行った、上高地～大滝山～常念岳～大天井岳～燕岳～中房温泉（3 泊 4 日）である。学生時代にハイキング部の部長の H 君と友達になり、山の知識を得た。また、深田久弥の日本 100 名山を知り、毎月「山と溪谷」を購読するようになった。学生時代の本業は学業とクラブ活動の卓球で、空いた時間でユースホステル泊の周遊旅行と山に行った。山は、小屋泊まりで北アルプスの主要な山と地元の鈴鹿セブンマウンテンに登ることが出来ればいいと思っていた。

1977 年 4 月に国鉄（東北営林）に就職した。就職してから山登りに夢中になった。ハイキングと残雪期の春山から始め、1981 年 12 月冬山（甲武信ヶ岳）、1984 年 7 月沢登り（部名垂沢～朝日岳）、1985 年 4 月山スキー（岩手山）とエスカレートしていった。国鉄時代の 10 年間で 100 名山は 94 山に登頂した。

1987 年 2 月、気象庁へ転職して埼玉県川口市に住んだ。交通の便が良かったため、東北時代より山に行きやすくなった。深田クラブの日本 200 名山（1987 年 9 月）が発表され、日本山岳会選定の 300 名山を知った（1988 年頃）。この頃は、春山縦走、山スキー、夏の北海道、冬の南アルプスに通っており、100、200、300 名山はこれらの山行の隙間で登った。1991 年 8 月、北海道の利尻山で 100 名山を完登した。この時点で 300 名山は 240 山登頂していた。

1991 年 10 月、単独の沢登りに限界を感じて、あゆむ山の会に入会した。会では四季合宿中心の活動となった。300 名山は会活動の隙間で登った。2002 年 4 月水戸、2007 年 4 月横浜、2009 年 4 月名古屋、2012 年 4 月津へ転勤し、その地方の未登の 300 名山に登った。2019 年 4 月火山活動が収まった焼山に登ることが出来て、300 名山は残り 21 山となった。その後、北海道（1 回）、中国（1 回）、四国（1 回）、九州（2 回）へ遠征し、2020 年 11 月 4 日九州の国見岳で 300 名山を完登した。



常念岳（大滝山より）1974 年 7 月 29 日撮影



国見岳山頂 2020 年 11 月 4 日撮影

＜北海道＞

国鉄時代の 10 年間（1977 年 4 月～1987 年 1 月）岩手県盛岡市等に住んでいたため、夜の青函連絡船を利用して、何度も北海道の山へ登りに行った。東京の気象庁へ転職してからは、夏休みやゴールデンウィークを利用して北海道の山に登りに行った。北海道の 300 名山は 26 山ある。これらの山の中で、高山植物が多く広大な大雪連峰と原始あふれる日高山脈のとりこになった。印象深い 6 山について感想を述べる。

【石狩岳】

石狩岳は石狩連峰の主峰であり、日本第三の長流である石狩川水源の山である。石狩連峰は、向かい合う大雪山がなだらかな起伏の多い闊達な山容に対して、急峻で重厚な趣がある。石狩岳には夏 2 回登った。最初に登ったのは 1981 年 7 月 17 日である。黒岳～旭岳～トムラウシ山～沼ノ原と縦走して、6 日目に石狩岳に達した。2 回目は 1985 年 8 月 11 日である。前日に幌加温泉からニペソツ山を往復後、杉沢出会でテント泊。当日はユニ石狩岳登山口からブヨ沼でテントを張り、音更山と石狩岳を往復した。山頂では人に会わず、石狩岳は静寂の山だった。



石狩岳（音更山付近より）1985 年 8 月 11 日撮影

【トムラウシ山】

トムラウシ山は大雪連峰の中ほどに雄然とそびえている。広大なお花畑あり、きれいな沼あり、美しい沢あり、北海道の山の良さが詰まっている、日本を代表する名山である。トムラウシ山には夏 2 回登った。最初に登ったのは 1981 年 7 月 14 日である。黒岳～旭岳～石狩岳の 3 日目に、忠別小屋から往復した。北沼の青い輝きが印象的で、山頂からの展望を満喫した。2 回目は 1986 年 8 月 10 日である。クワウンナイ川～オプタテシケ山～十勝岳の 2 日目、最初の山として。クワウンナイ川滝の瀬 13 丁の流れ、黄金ヶ原の見渡すかぎりのウサギギクが美しかった。



トムラウシ山（化雲平より）1981 年 7 月 14 日撮影

【幌尻岳】

幌尻岳は日高山脈の最高峰である。日高山脈は、日勝峠から襟裳岬まで約 120km 続く原始の山々で、ナキウサギやヒグマが住んでおり、多くのカールがある。幌尻岳には夏 3 回登った。最初に登ったのは 1982 年 8 月 12 日である。奥新冠ダムから幌尻岳に登ってセツ沼

カールに3泊した。この時に初めてヒグマを見た。夏は七ツ沼カールに住んでいるクマらしく、他のパーティの爆竹に驚く様子もなく、高山植物を食べていた。2回目は1994年8月4日である。あゆむ山の会のFkさん、F1さんとカムイエクウチカウシ山～幌尻岳の6日目、最後の山として。山頂は霧で展望がなかったが、新冠川のナメと函が美しかった。



幌尻岳（北戸蔦別岳より）1982年8月15日撮影

3回目は2001年7月25日である。あゆむ山の会のKさんと戸蔦別川を遡行後、七ツ沼カールから往復した。七ツ沼カールは雪渓が残って高山植物が咲き、ナキウサギの声が聞こえる楽園だった。

【カムイエクウチカウシ山】

カムイエクウチカウシ山は中部日高にあり、幌尻岳に次ぐ高峰で日高の盟主たる風格を備えている。また、八ノ沢カールで起きた福岡大学ワンダーフォーゲル部のヒグマ事件で有名である。カムイエクウチカウシ山には夏3回登った。最初に登ったのは1987年7月27日である。カムイエクウチカウシ山～エサンオマントッタベツ岳～札内岳の2日目、最初の山として。八ノ沢カールには、福岡大パーティーの靴と墓標があった。十ノ沢カールとエサンオマントッタベツ岳北東カールでヒグマを見た。2回目は1988年7月28日である。ペテガリ岳～1839峰～コイカクシュサツナイ岳～カムイエクウチカウシ山の5日目、最後の山として。あこがれの1839峰からコイボクカールを抱いたカムイエクウチカウシ山が立派だった。3回目は1994年8月4日である。あゆむ山の会のFkさん、F1さんとカムイエクウチカウシ山～幌尻岳の3日目、最初の山として。初めて山頂からの日高の雄大な展望を満喫した。



カムイエクウチカウシ山（縦走路より）
1987年7月27日撮影

【ペテガリ岳】

ペテガリ岳は中・南部日高山脈で最後まで登頂を拒み続けたため「遥かなる山」と言われている。ペテガリ岳には夏3回登った。最初に登ったのは1983年7月23日である。ペテガリ山荘に泊まり西尾根を登って東尾根を下った。山頂にはヘリコプターで運んで組み立てた測量会社のテントがあった。この時、山また山が延々と続く日高の山の魅力



ペテガリ岳（小ピークより）1988年7月25日撮影

に取り付かれた。2 回目は 1988 年 7 月 24 日である。ペテガリ岳～1839 峰～コイカクシュサツナイ岳～カムイエクウチカウシ山の 1 日目、最初の山として。ナキウサギの声を聴きながら C カールに泊まった。3 回目は 1992 年 6 月 24 日である。神威岳～中ノ岳～ペテガリ岳の 4 日目、最後の山として。山頂には 6 月 20 日に訪れた岳友の T 氏の書置きがあった。

【神威岳】

神威岳は登山道があり、南日高と中部日高の玄関口に位置する。神威岳には春 1 回、夏 1 回、計 2 回登った。最初に登ったのは 1990 年 4 月 28 日である。神威岳～ピリカヌプリ～野塚岳の 2 日目、最初の山として。吹雪に見舞われた厳しい山行で、8 日間登山者と出会わなかった。2 回目は 1992 年 6 月 21 日である。神威岳～中ノ岳～ペテガリ岳の 1 日目、最初の山として。中ノ岳～ペテガリ岳間のヤブがひどく、連日の 10 時間行動のきつい山行だった。



神威岳（ピリカヌプリより）1990 年 5 月 2 日撮影

＜東北＞

国鉄時代の 10 年間（1977 年 4 月～1987 年 1 月）、宮城県仙台市（6 ヶ月）、岩手県盛岡市（5 年 4 ヶ月）、岩手県湯田町（3 年）、青森県野辺地町（1 年）に住んでいたため、東北地方には何度も登った好きな山が多い。また、気象庁へ転職して首都圏に住んでからは、山スキーで八甲田山、岩木山、鳥海山、吾妻山周辺、沢登りで乳頭山、八幡平、和賀岳周辺を幾度も訪れた。好きな山を 3 つ上げれば、お花畑と紅葉が美しい焼石岳、ブナ原生林の和賀岳、痩せ尾根が続く神室山である。東北の 15 山の感想を述べる。

【八甲田山（大岳）】

八甲田山は岩木山とともに青森県を代表する名山である。国道 103 号線を境に大岳を主峰とする北八甲田、櫛ヶ峰を主峰とする南八甲田に分かれている。大岳には春 4 回、夏 3 回、秋 1 回、計 8 回登った。最初に登ったのは 1979 年 6 月 23 日である。前日勤務終了後湯田町から列車に乗り、青森駅でステーションビバーク。当日は朝一番バスに乗車して酸ヶ湯で下車し、大岳～小岳～高田大岳を縦走した。その後、青森市の〇宅に泊まり、春のスキー、夏の高山植物、秋の紅葉を目的に北八甲田と南八甲田の山々へ幾度も訪れた。1993 年 7 月 24 日～25 日、あゆむ山の会夏山合宿(14 人)での南八甲田、



八甲田大岳、小岳、高田大岳（櫛ヶ峰より）
1986 年 5 月 4 日撮影

2008 年 9 月 13 日～15 日、S さんとの奥入瀬川黄瀬川～櫛ヶ峰が印象に残っている。

【岩木山】

岩木山は津軽富士と呼ばれ、津軽平野から望む姿が富士山のように美しい。また、シーハイルの歌に詠まれており、スキーツアーコースが数本ある。岩木山には春 4 回、夏 2 回、計 6 回登った。最初に登ったのは 1981 年 6 月 21 日である。野辺地町を朝早く出発し、嶽温泉から登って、岩木山神社へ下山した。山頂からは白神岳が美しかった。その後、春スキーで 3 回訪れた。1988 年 4 月 16 日（百沢コース）、1989 年 4 月 21 日（長平コース）、1991 年 4 月 27 日（弥生コース）を滑降した。春のザラメ雪の滑降は爽快だった。



岩木山（長平より）1989 年 4 月 21 日撮影

【白神岳】

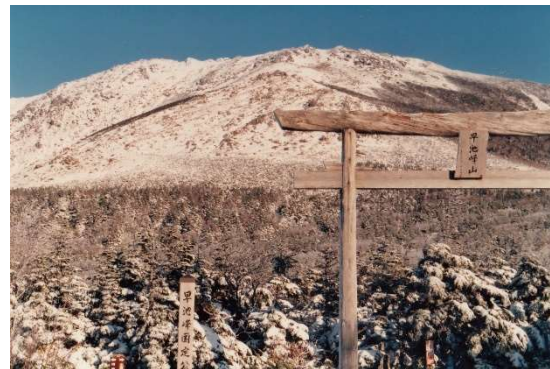
白神山地は、青森・秋田県にまたがる広大な山域で、日本最大のブナ原生林があり、世界自然遺産に登録されている。白神岳は、この山地の西端に位置する主峰である。白神岳には夏 1 回、秋 2 回、計 3 回登った。最初に登ったのは 1981 年 6 月 6 日である。同じ職場の F 君と野辺地発の 1 番列車に乗り、青森、東能代で乗り換え陸奥黒崎へ。ここから白神岳へ登り、山頂付近でテント泊。翌日十二湖方面への道を探したが見つからず往路を下山した。2 回目は 1986 年 9 月 23 日である。前日、黒崎登山口に車を駐車し、二股泊。当日は白神岳～十二湖と歩いた。山頂には、その年の 6 月に完成した避難小屋があった。3 回目は 1992 年 9 月 14 日である。あゆむ山の会の H さん、S さんと追良瀬川を遡行して白神岳に達した。追良瀬川のブナ林と山頂からの夕日が美しかった。



白神岳（山頂より）1992 年 9 月 14 日撮影

【早池峰山】

早池峰山は北上山地の最高峰で、ハヤチネウスユキソウで有名である。早池峰山には春 1 回、夏 5 回、秋 1 回、冬 2 回、計 9 回登った。最初に登ったのは 1977 年 8 月 10 日である。前日、仙台駅での研修明け勤務後、列車とバスを乗り継ぎ岳集落で泊。当日は岳～河原坊～早池峰山～鶏頭山～岳と歩いた。ハヤチネウ



早池峰山（小田越より）1984 年 12 月 9 日撮影

スユキソウが咲いていた。盛岡在住時は、毎年早池峰山を訪れた。印象深い山行は、①1982年5月22日～23日、遠野～薬師岳～早池峰山～平津戸、大野平付近で風の又三郎を思った。②1985年12月20日～21日、岳～河原坊～早池峰山、テントの外でダイヤモンドダストを見た。③1992年7月25日～27日、あゆむ山の会夏山合宿（14人）である。会に入った最初の夏で、あゆむ山の会の仲間と楽しいひとときを過ごした。

【岩手山】

岩手山は南部の片富士と呼ばれ、盛岡市から望む姿が富士山のように美しい。盛岡市に5年4か月住んでいた私にとって、岩手山は第3のふるさとの山である。北上川からの岩手山の眺めは、いつも心を洗い流してくれる。残雪の岩手山、新雪の岩手山も良いが、しばれた冬の朝、ピーンと冴えわたった岩手山が一番美しい。岩手山には春6回、夏1回、秋1回、計8回登った。最初に登ったのは1977年10月10日である。前日、同じ職場のK君と盛岡からバスで八幡平頂上へ。ここから大深岳、三ツ石山を経て三ツ石山荘泊。翌日は犬倉山、八ツ目湿原を経て岩手山に達した。1985年から1987年の春は、天気の良い日に柳沢部落からスキーを背負って登り、9合目からスキー滑降した。下部の樹林帯では苦戦したが、標高差1400mの下りは充実感で一杯だった。



岩手山（馬返しより）1985年4月7日撮影

【乳頭山】

乳頭山は、秋田、岩手県境に連なる秋田駒ヶ岳山群の一峰である。池塘が美しい千沼ヶ原や大白森が稜線上にあり、北側には葛根田川があるので幾度もこの山域に足を運んだ。乳頭山には、春1回、夏4回、秋3回、計8回登った。最初に登ったのは1978年6月9日である。前職場のK君と乳頭温泉から田代岱山荘に泊まり乳頭山を往復した。翌日は秋田駒ヶ岳へ縦走して国見温泉へ下山した。1985年3月23日～24日、乳頭山～秋田駒ヶ岳～笹森山の春山縦走、1985年9月21日、南白沢～千沼ヶ原～乳頭山が印象に残っている。



乳頭山（田代岱より）1986年6月29日撮影

【和賀岳】

和賀岳は、西和賀町から盛岡市への県道1号線が山伏トンネルに入る手前、西に広がる高原の奥に穏やかな姿を見せている。また、和賀岳は開発の手があまり入らなかったため、ブナの原生林が残っていることでも知られている。私は岩手県和賀郡湯田町（西和賀町）に

1978年3月29日～1981年3月10日の3年間住んだ。和賀岳は第2のふるさとの山である。和賀岳には、春3回、夏2回、秋5回、計10回登った。最初に登ったのは1979年10月22日である。前日、秋田県側の真木林道を歩き薬師岳避難小屋に泊まった。当日は和賀岳に登り、赤沢コースを下山して湯田町に戻った。山頂には「岩根にカモシカ 笹ヤブに熊 谷間にサルも遊んでいます。」の詩文があった。印象深い山行は、①1984年4月28日～30日、貝沢から入山し大荒沢岳、朝日岳、高下岳、和賀岳への友人と2泊3日の縦走。②1984年8月11日～12日、和賀川源流を遡行し、稜線に泊まつの和賀岳。③1995年9月15日～17日、あゆむ山の会の仲間7人で行った堀内沢・八滝沢～和賀岳である。



和賀岳（大荒沢岳より）1984年4月28日撮影

【焼石岳】

列車が水沢から北上へ走る間、西方に茫洋とした姿の山が見える。それが焼石岳である。4月下旬の北上川展勝地の桜と残雪の焼石岳、5月中旬の水田と残雪の焼石岳は絵葉書のごとく美しい。焼石岳には、春3回、夏2回、秋6回、冬1回、計12回登った。最初に登ったのは1977年10月23日である。前日、夏油温泉から入山し、経塚山を経て金明水避難小屋泊。当日は焼石岳に登って上沼、中沼を経て尿前へ下山した。広々とした縦走路、きれいな避難小屋、中沼の紅葉などから、焼石岳に魅了された。印象深い山行は、①1982年10月3日～4日、夏油温泉～牛形山～金明水～焼石岳～尿前、稜線の紅葉が美しかった。②1983年6月25日～26日、入道森～焼石沼～焼石岳～夏油温泉、高山植物が美しかった。③1988年3月19日～21日、地吹雪のため銀明水避難小屋に停滞し、山行3日目にスキーで登頂した。



焼石岳（中沼より）1986年10月10日撮影

【栗駒山】

栗駒山は宮城県、岩手県、秋田県の3県にまたがり、豊富な温泉がこの山を取り囲んでいる。栗駒山には、夏4回、秋2回、計6回登った。最初に登ったのは1978年6月4日である。前日、湯田町山岳会の車で須川温泉泊。当日は山開き行事に参加後、山頂を往復した。印象深い山行は、①1983年11月12日～13日、湯浜温泉



栗駒山（栗駒山登山道より）1992年8月1日撮影

～栗駒山～温湯温泉、雪の山頂でテンに会い、二つの温泉を満喫した。②1992年8月1日～2日、あゆむ山の会のKさん、Mさん、Sさんとの産女川～栗駒山である。会に入って最初の沢登りで、美しい沢と楽しい夜の宴を満喫した。

【神室山】

神室山は神室連峰の主峰で、南に天狗森・小又山・火打岳・杳蔵山、北西には前神室山がある、南北約20kmの山塊である。尾根は冬季の豪雪と偏西風に磨かれて細く痩せており、日高山脈の雰囲気がある。神室山には、夏6回、秋3回、計9回登った。最初に登ったのは1982年6月7日である。前日、陸羽東線鶴杉駅から八森山、火打岳と縦走してテント泊。当日は小又山、天狗森と縦走し神室山から役内口へ下山した。痩せ尾根が続く展望が良い縦走路、登山道に咲くイワカガミなどの高山植物、登山者がほとんどいなくて静かなことなどから、神室山に魅了された。印象深い山行は、①1986年8月22日～23日、根ノ先沢～神室山、雪渓が残っており必死の沢登りだった。②1993年6月5日～6日、杳蔵山～小又山～神室山、4人（男性2人、女性2人）での雨の縦走だった。



神室山（天狗森より）1987年6月14日撮影

【鳥海山】

鳥海山は、鳥海富士・出羽富士・秋田富士とも呼ばれ、山容秀麗で目立つ山である。最高峰は2237mの新山である。日本海から15kmしか離れていないため、天候変化が激しく、冬季は多量の雪が降り、遅くまで残雪が残る。鳥海山の最高点の新山には春1回、夏2回、計3回登った。最初に登ったのは1978年8月12日である。前日、岩手県湯田町から列車とバスを乗り継ぎ西面の鉾立登山口へ。賽ノ河原経由で頂上小屋に泊まった。当日は新山往復後、七高山から北面の祓川に下山した。その後、春スキーで4回（1986年5月（北面）、1992年5月（南面）、1993年5月（東面、西面）、1998年5月（南面））訪れた。その中で七高山から東面（百宅コース）の滑降は、斜面・雪質とも良く爽快だった。



鳥海山（大清水山荘より）1993年5月21日撮影

【月山】

月山は山形県の中央にあり、牛の背のようにゆったりとした山容をしている。また、出羽

三山の主峰で信仰の山である。月山には春 2 回、夏 2 回、計 4 回登った。最初に登ったのは 1978 年 8 月 2 日である。湯殿山参籠所に宿泊し、月山を経て弥陀ヶ原の 8 合目へ下山した。2001 年 4 月 23 日～24 日、あゆむ山の会の K さんとの月山～念仏ヶ原～肘折温泉が印象深い。長大なスキーツアーコースで、所々迷いながらもトレースでき、充実した山行だった。



月山（姥ヶ岳より）1994 年 5 月 8 日撮影

【朝日岳（大朝日岳）】

朝日岳は山形と新潟の県境にあり、主峰は大朝日岳である。山腹のブナ林、稜線の草原やお花畑、りっぱな無人小屋とそろっていて、東北の山の代表選手である。大朝日岳には夏 1 回、秋 3 回、計 4 回登った。最初に登ったのは 1978 年 7 月 31 日である。前日、白滝から入山して鳥原小屋泊。当日は大朝日岳に登り狐穴小屋泊。翌日は以東岳から大鳥へ下山した。その後の 3 回の山行では、障子ヶ岳付近の美しい紅葉、三面道の恐ろしい丸太のつり橋、金玉水・銀玉水のとろけるような味、などが印象に残っている。



大朝日岳（平岩山より）1989 年 9 月 17 日撮影

【吾妻山（西吾妻山）】

吾妻山は福島盆地と会津盆地の中間にある大きな火山群で、東西約 15 km の間に 1900m 前後の峰が十数座ある。最高峰は標高 2035m の西吾妻山であるが、弥平衛平がある東大巓が吾妻連峰の盟主だと思う。吾妻連峰には、春 9 回、夏 3 回、秋 1 回、冬 2 回、計 14 回訪れた。そのうち、西吾妻山に春 1 回、夏 1 回、秋 1 回、冬 1 回、計 4 回登った。最初に登ったのは 1977 年 8 月 28 日である。前日、仙台を同僚の K 君、S 君と出発し、浄土平、一切経山、東大巓と縦走して明月荘横にテント泊。当日は人形石、西吾妻山へ縦走し白布温泉へ下山した。気象庁に転職してからは、吾妻連峰は首都圏から比較的近く、天元台スキー場や吾妻スキー場のリフトで主稜線近くまで上がれること、冬季も吾妻小屋が営業していることなどから、山スキーで 11 回訪れた。その中で、東大巓からの大沢下り、東吾妻山から土湯温泉への山行が印象に残っている。



中吾妻山、西大巓、西吾妻山（東吾妻山より）
1983 年 10 月 22 日撮影

【飯豊山（本山）】

飯豊連峰は、新潟・福島・山形三県にまたがる膨大な山塊である。日本海から三十数キロ離れて南北に並行し、冬季は偏西風をまともに受けるので、ドカ雪が降り積もる。南の三国岳から北の杵差岳の間に、飯豊本山、大日岳、北股岳などがある。飯豊連峰へは春5回、夏1回、秋4回、計10回訪れた。そのうち、飯豊本山に秋4回登った。最初に登ったのは1979年9月23日である。前日、同僚のT君と川入から入山して三國小屋泊。当日は飯豊本山、大日岳（往復）、烏帽子岳と縦走して梅花皮小屋泊。翌日は門内岳から飯豊山荘へ下山した。水戸市に住んでいた2003年から2005年の5月、毎年石転び沢をスキー滑降した。温水平から石転び沢出合いまでのトラバース道と石転び沢の急登は試練であったが、梅花皮小屋から出合いまでの標高差1000mのスキーは至福の時だった。



飯豊本山（種蒔山より）2006年10月9日撮影

＜上越・南会津・尾瀬・日光＞

南会津から上越国境の山々は、私が最も好きな山域である。果てしなく続く山々に、残雪を利用してトレースをのぼすことに最高の喜びを感じる。上越・南会津・尾瀬・日光の山々は首都圏から比較的近いので、沢登り、山スキー、あゆむ山の会の合宿等で300名山の山頂を何度も踏んだ。印象深い10山について感想を述べる。

【浅草岳】

浅草岳は、八十里越えと六十里越の二つの峠道に囲まれている。只見線田子倉駅からは鬼ヶ面山を従えて、堂々とした山容を見せている。浅草岳には春4回、秋1回、計5回登った。最初に登ったのは1980年10月10日である。前日、夜行列車を乗り継ぎ、当日朝小出発一番列車で田子倉へ。田子倉から剣ヶ峰、浅草岳、鬼ヶ面山と縦走して大白川へ下山した。山頂付近は紅葉で美しかった。その後浅草岳には山スキーで4回登った。1995年4月15日～16日、あゆむ山の会山スキー&登山合宿（12人）が印象深い。1日目は五味沢から入山し、ムジナ沢標高1180m付近でテントを張り、5人で浅草岳へ登ってスキー滑降した。2日目は12人全員で浅草岳に登り、スキー組の9人は早坂尾根を滑降して五味沢に戻った。天気に恵まれて楽しい山行だった。



浅草岳（小三本沢手前より）2001年4月14日撮影

【平ヶ岳】

平ヶ岳は尾瀬や上越の山々のいちばん奥まったところにある。山頂部には、私の大好きな湿原がある。湿原の山頂や草原の山頂でぼんやりと雲を眺めているのは、最高の贅沢である。尾瀬や上越の山に登り始めたころ平ヶ岳ははるか遠くにあり、あこがれの的であった。平ヶ岳には春2回、夏2回、秋2回、計6回登った。最初に登ったのは1980年10月17日である。前日、奥只見湖を渡船し尾瀬口から鷹ノ巣登山道を登って台倉清水でテント泊。当日は姫池ノ原を経由して山頂に立った。その時は霧で展望が皆無であった。1986年4月25日～28日、十字峡～丹後山～平ヶ岳～景鶴山～尾瀬が印象深い。十字峡林道のブロック雪崩に肝を冷やし、山行2日目に真っ白な平ヶ岳山頂で宿泊した。



平ヶ岳（大白沢山より）1986年4月27日撮影

【会津朝日岳】

会津朝日岳は、只見町の南方に位置し、会津駒・朝日山塊の北端にあり、頂上付近は黒々とした岩壁を見せている。会津朝日岳には春3回、夏1回、計4回登った。最初に登ったのは1986年5月31日である。会津若松経由只見線に乗り、赤倉沢の登山道から熊ノ平避難小屋に1泊して登った。登山口のイワナ養殖のおばさんにお茶をごちそうになった。山頂からは丸山岳、会津駒ヶ岳等の大展望があった。1988年4月29日～5月4日、会津朝日岳～丸山岳～会津駒ヶ岳～燧ヶ岳が印象深い。避難小屋で厳冬期に会津駒ヶ岳～会津朝日岳を縦走した小名浜山岳会の7人パーティーと同宿した。



会津朝日岳（叶ノ高手より）1986年6月1日撮影

【会津駒ヶ岳】

会津駒ヶ岳は桧枝岐村の山である。山頂から中門岳へ続く稜線には湿原がある。主稜線上には、大戸沢岳、三岩岳などがあり、なだらかな稜線は春スキーを楽しむのに都合が良い。会津駒ヶ岳には春8回、夏1回、計9回登った。最初に登ったのは、1978年5月28日である。群馬県側から至仏山と燧ヶ岳へ登って、桧枝岐に下山し、民宿に泊まって山頂を往復



会津駒ヶ岳（駒ノ小屋より）1988年5月2日撮影

した。その頃の桧枝岐は秘境の面影があった。1997年4月19日～20日、あゆむ山の会山スキー&登山合宿（9人）が印象深い。1日目は桧枝岐から入山して会津駒ヶ岳に登り、御神楽沢に向かって滑降して源流二俣に泊まった。夜はハールポップ彗星を見た。2日目は大戸沢岳へ登り、大戸沢岳南東尾根を滑降した。

【燧ヶ岳】

燧ヶ岳は尾瀬のシンボルである。燧ヶ岳は尾瀬沼の北にそびえる火山で、1万年以上前の噴火が只見川上流をせき止め、尾瀬沼や尾瀬ヶ原を作った。燧ヶ岳には春6回、夏1回、秋1回、計8回登った。最初に登ったのは1977年4月30日である。東北鉄道学園研修中、同僚のK君と二人で、下田代十字路にテントを張って往復した。1998年4月18日～19日、あゆむ山の会山スキー&登山合宿（19人）が印象深い。1日目は大杉岳へ登って、御池でI料理人の山菜天婦羅で合同宴会を行った。2日目は燧ヶ岳に登って、御池ルートを滑降した。暖冬少雪の年で、ブナ平の滑降は出来なかったが、山を見ながら楽しいひとときを過ごした。



燧ヶ岳（尾瀬ヶ原より）1978年5月26日撮影

【至仏山】

尾瀬ヶ原（下ノ大堀川）のミズバショウを前景にした至仏山は、尾瀬を代表する景観である。この景色を見ると「夏が来ると思い出す、はるかな尾瀬」のフレーズが頭に浮かぶ。至仏山には春5回、秋2回、計7回登った。最初に登ったのは1978年5月26日である。夜行列車とバスを乗り継ぎ早朝鳩待峠へ。ここから至仏山へ登り、山ノ鼻へ下った。1993年4月17日～19日、S永久名誉会長と2で行ったあゆむ山の会山スキー合宿（ススケ峰中退）が印象深い。戸倉に車を駐車して、津奈木橋、鳩待峠と歩き、山ノ鼻泊。午後から一人で至仏山を往復した。モナカ気味の雪質は快適ではなかったが、静寂の尾瀬を満喫した。



至仏山（尾瀬ヶ原より）1978年5月26日撮影

【巻機山】

巻機山は、春の山スキー、夏の沢登り、高山植物が楽しめる近くて良い山である。また、谷川岳と越後三山の間にあるため残雪期縦走の起点（終点）となることが多い。巻機山には春6回、夏3回、計9回登った。最初に登ったのは1979年6月5日である。前日、苗場

山赤湯から列車とバスを乗り継ぎ清水（YH 泊）へ。当日は快晴の巻機山を往復した。苗場山、谷川岳、越後三山の展望が良く、山頂付近は草原、アオモリトドマツ、残雪のコントラストが美しかった。2003 年 5 月 2 日～5 月 5 日、あゆむ山の会春山合宿（4 人）でのネコブ山～下津川山～巻機山～白毛門が印象深い。連日晴天に恵まれ、5 月 4 日 10 時 15 分に牛ヶ岳山頂に立った。



巻機山（前巻機山より）2017 年 4 月 24 日撮影

【皇海山】

皇海山は栃木と群馬の県境の稜線上で、大きな山体を見せて孤高を持している。木立に囲まれた山頂は眺望が良くなく、地味な静かなる山である。皇海山には秋 4 回登った。最初に登ったのは 1980 年 11 月 3 日である。前日、原向から歩いて、銀山平、庚申山、鋸岳を越えてテント泊。午後から小雪が降って寒い日だった。当日は曇り時々小雪の中、皇海山を往復して六林班峠経由で銀山平に下山した。1988 年 10 月 8 日～11 日、日光湯本～錫ヶ岳～三俣山～皇海山～原向が印象深い。カマ 1826 峰の紅葉、シカの鳴き声が聞こえるカモシカ平・国境平が素晴らしかった。



皇海山（庚申山展望台より）2005 年 11 月 2 日撮影

【谷川岳】

谷川岳は上越国境の山の代表選手である。一ノ倉沢などの岩壁にはクライマーが挑戦するが、一般コースの天神尾根や西黒尾根を登るハイカーが多い。谷川岳には春 3 回、夏 5 回、冬 3 回、計 11 回登った。最初に登ったのは 1980 年 6 月 15 日である。朝、宝台樹の立教大山小屋を立ち、土合から西黒尾根を登って山頂に立った。翌日は肩ノ小屋から万太郎山、仙ノ倉山、平標山へと縦走して土樽へ下山した。また、1989 年 4 月 2 日（熊穴沢）、1991 年 4 月 21 日（芝倉沢）、1993 年 4 月 3 日（茂倉谷）の春スキーは爽快だった。



谷川岳（天神峠より）1989 年 4 月 2 日撮影

【上州武尊山】

武尊山の名は、日本武尊が東征の折に、この山に住む悪鬼を退治したと伝説に由来している。南に赤城山、東に日光の山々、北に尾瀬の山々、西に谷川連峰と、これらの中心にあつ

て根張りある裾野を広げて堂々たる山容を誇っている。上州武尊山には夏 3 回、秋 2 回、冬 1 回、計 6 回登った。最初に登ったのは 1980 年 6 月 14 日である。前日の夜、岩手県湯田町を出発し、列車とタクシーを乗り継ぎ旭小屋へ。旭小屋から不動岳、前武尊、家ノ串を経て武尊山（沖武尊）に登った。2019 年 2 月 9 日～11 日、あゆむ山の会の仲間 5 人で宝台樹スキー場から自分たちだけでトレースをつけて登った上州武尊山が印象深い。



上州武尊山（縦走路より）2001 年 9 月 25 日撮影

＜北・中央・南アルプス＞

名古屋市に住んでいた学生時代に北アルプスの小屋泊から山登りを始めた。社会人になって無雪期のテント泊縦走、積雪期のテント泊縦走、山の会に入ってバリエーションルートと何度も北・中央・南アルプスを訪れた。日本の屋根である北・中央・南アルプスの 300 名山は北アルプス 34 山、中央アルプス・御嶽 11 山、南アルプス 26 山、計 71 山ある。その中で、印象深い 18 山について感想を述べる。

【白馬岳】

白馬岳は大雪渓と高山植物で人気の山である。白馬岳には春 1 回、夏 3 回、計 4 回登った。最初に登ったのは 1983 年 8 月 27 日である。前日、大雪渓を登り村営頂上小屋キャンプ場にテントを張り白馬鍾ヶ岳を往復。当日以降は、白馬岳～朝日岳～親不知と縦走した。梅海山荘から日本海までは起伏が激しく暑く大汗をかいだ。1996 年 5 月 25 日～27 日、白馬岳～雪倉岳～蓮華温泉～梅池のスキー山行が印象深い。柳又谷上部の大斜面の滑降、雪倉岳東面の滑降は爽快だった。また、蓮華温泉から望む朝日岳が美しかった。



白馬岳（小蓮華岳より）1983 年 8 月 27 日撮影

【毛勝山】

毛勝山は劔岳から日本海に延びる北方稜線にあり、ここからの劔岳の展望は素晴らしい。毛勝山には春 4 回登った。1 回目は 1989 年 5 月 27 日である。岳友の S 氏とスキーを背負っ

て阿部木谷を登って釜谷山を往復し、阿部木谷をスキー滑降した。2 回目は 1994 年 4 月 30 日である。あゆむ山の会春山合宿（4 人）毛勝山～劔岳の 2 日目、最初の山として。3 回目は 1996 年 5 月 6 日である。あゆむ山の会春山合宿（8 人）僧ヶ岳～毛勝山の 4 日目、最後の山として。4 回目は 2005 年 5 月 4 日である。あゆむ山の会春山合宿（6 人）毛勝三山の 2 日目、最初の山として。猫又谷コルのテント場で、劔岳を見ながらの宴は今も目に浮かんでくる。



毛勝山（北西尾根より）2005 年 5 月 4 日撮影

【劔岳】

劔岳は、岩と雪の殿堂、北アルプスの雄である。バリエーションルートが多くあり、岳人のあこがれと鍛錬の山である。劔岳には春 1 回（北方稜線）、夏 3 回（早月尾根、八ツ峰、源次郎尾根）、秋 1 回（前劔から往復）、冬 1 回（早月尾根）、計 6 回登った。最初に登ったのは 1976 年 9 月 24 日である。前日に立山を縦走して劔沢小屋に泊。当日は前劔から劔岳を往復して劔御前小屋に泊。前日降った雪が日陰に残っていて慎重に歩いた。1994 年 4 月 29 日～5 月 4 日、あゆむ山の会春山合宿（4 人）毛勝山～池ノ平山～劔岳が印象深い。5 年前、毛勝山から憧れた劔岳に、北方稜線をトレースして、6 日目に山頂に立った時は熱いものがこみ上げてきた。



劔岳（釜谷山より）1994 年 4 月 30 日撮影

【槍ヶ岳】

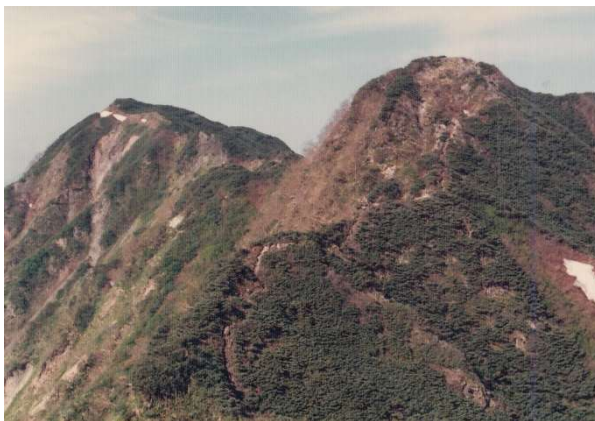
槍ヶ岳は北アルプスのシンボルである。天を突く三角錐は、北アルプスの全ての山から指さすことができる。槍ヶ岳には春 2 回（北鎌尾根、表銀座）、夏 3 回、秋 1 回、冬 1 回（中崎尾根）、計 7 回登った。最初に登ったのは 1975 年 8 月 16 日である。前日、妹と名古屋を出発し、上高地から入山して横尾泊。当日は槍沢を登り槍ヶ岳山荘に泊まって山頂を往復した。山頂は霧で展望はなかった。1992 年 5 月 1 日～5 日、あゆむ山の会春山合宿（4 人）北鎌尾根～槍ヶ岳が印象深い。高瀬ダムから入山し、水俣川沿いの崩れた道、雪壁の登りや緊張のトラバースなどを経て、5 月 4 日に吹雪の槍ヶ岳山頂に立った。



槍ヶ岳（北鎌尾根独標より）1992 年 5 月 3 日撮影

【霞沢岳】

霞沢岳は上高地の入り口にあり、番人的な存在である。霞沢岳へ徳本峠から登山道が整備されたのは1984年のことである。霞沢岳には春2回（八衛門沢、西尾根）、夏1回、冬1回、計4回登った。最初に登ったのは1987年6月28日である。前日徳本峠小屋に泊まり、翌日徳本峠から往復した。梅雨の晴れ間に恵まれ、穂高連峰の展望が素晴らしかった。2002年12月28日～31日、あゆむ山の会冬山合宿（5人）ジャンクションピークから霞沢岳往復が印象深い。標高1700m付近から霞沢岳までの約80%をラッセルしてトレースをつけた、我々の霞沢岳だった。



霞沢岳、K2（K1より）1987年6月28日撮影

【空木岳】

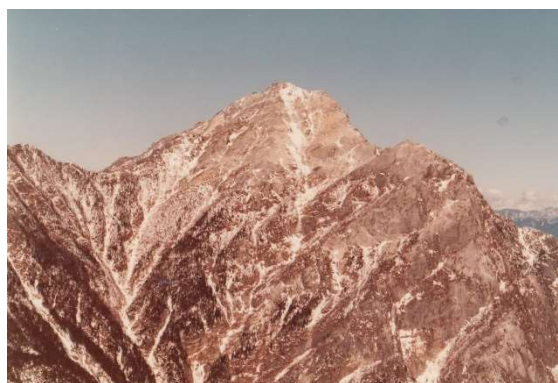
空木岳は木曽山脈のほぼ中央にあり、主峰木曽駒ヶ岳に次ぐ雄峰であり、頂上付近は緑のハイマツと白い花崗岩のコントラストが美しい。空木岳には夏2回、秋2回、冬1回、計5回登った。最初に登ったのは1979年10月9日である。前日、千畳敷山荘から駒ヶ岳、宝剣岳、東川岳と縦走して木曽殿山荘泊。当日は空木岳、南駒ヶ岳、越百山を縦走して須原駅に下山した。東川岳でブロッケンを見た。1998年12月28日～30日、あゆむ山の会冬山合宿（4人）池山尾根から空木岳往復が印象深い。空木岳登頂後、標高2320m付近のテント場で、29日入山して駒ヶ岳まで縦走するMパーティー（4人）と合流して大宴会となった。



空木岳（大滝山より）2010年9月19日撮影

【甲斐駒ヶ岳】

甲斐駒ヶ岳は南アルプスの顔であり、白く輝くピラミダルな鋭峰である。甲斐駒ヶ岳には夏1回、秋2回、冬1回、計4回登った。最初に登ったのは1978年6月27日である。前日、丹溪山荘から仙丈岳を往復。当日は北沢峠から甲斐駒ヶ岳山頂に立ち、黒戸尾根を五合目小屋まで下った。梅雨期だったので山頂からの展望はなかった。1996年9月14日



甲斐駒ヶ岳（栗沢山より）1983年12月31日撮影

～16日、あゆむ山の会秋山合宿（甲斐駒集中）が印象深い。私は5人パーティーで尾白川本谷を遡行し、甲斐駒ヶ岳に達した。15日夕方、黄連谷3人パーティー、鋸岳2人パーティー、計10人が7合目テント場に集中した。

【仙丈ヶ岳】

仙丈ヶ岳は遠くから眺めると雄大なスカイラインを引いている。また、三つのカールが山容にアクセントを付けている。仙丈ヶ岳には、夏3回、冬2回、計5回登った。最初に登ったのは1978年6月26日である。無人の丹溪山荘から仙丈岳を往復した。梅雨期だったので山頂からの展望はなかった。2005年7月23日～25日、三峰川～仙丈ヶ岳が印象深い。北岳までの計画だったが、台風接近のため仙丈ヶ岳を往復して北沢峠へ下山した。三峰川は緑したたる穏やかな流れだった。



仙丈ヶ岳（小仙丈ヶ岳より）1982年12月29日撮影

【北岳】

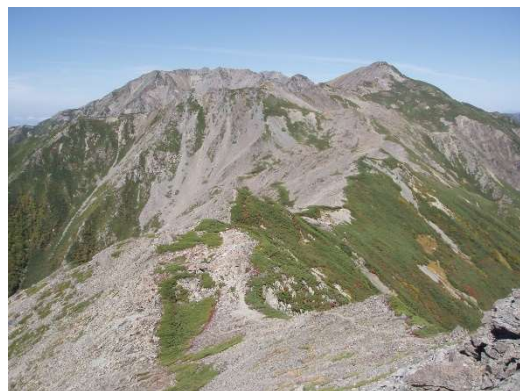
北岳はわが国第2の高峰であり、南アルプスの最高峰である。大菩薩峠など甲斐の山に行ったときに展望する、すっきりした三角形の形は高潔な気品がある。夏は広河原から容易に登れるが、冬は夜叉神峠からいったん野呂川に下り、池山吊尾根に登らなくてはならず、昔言われたはるかなる甲斐の白峰に戻る。北岳には夏5回、冬2回、計7回登った。最初に登ったのは1978年7月19日である。広河原から大樺沢、八本歯を登って北岳山頂を往復して北岳山荘に泊まった。翌日は間ノ岳、農鳥岳を縦走して奈良田に下山した。冬に最初に登ったのは1985年1月4日である。1月2日に夜叉神峠から入山し、砂払の頭下の樹林帯で1日停滞後の登頂だった。この時は農鳥岳まで縦走して奈良田に下山した。冬の強風を体感した山行だった。



北岳（砂払岳より）1985年1月4日撮影

【農鳥岳】

農鳥岳は白根三山の一峰としてでんと大きく構えている。名前は首の長いスワンの雪形に由来している。農鳥岳には夏2回、秋2回、冬1回、計5回登った。最初に登ったのは1978年7月20日である。前日、八本歯から北岳に登って北岳山荘泊。当日は農鳥岳まで縦走して奈良田に下山した。2018年8月11日～15日、あゆむ



農鳥岳（広河内岳より）2009年9月21日撮影

山の会夏山合宿（5人）が印象深い。奈良田から入山し、広河内岳から池ノ沢を下降、大井川東俣遡行後、4日目に農鳥岳に達した。

【塩見岳】

塩見岳は南アルプス中部に鉄の兜のごとくどっしりとして、孤高を誇っている。塩見岳には夏2回、秋1回、冬2回、計5回登った。最初に登ったのは1980年7月13日である。前日、小太郎尾根を登って北岳山荘泊。当日は間ノ岳・熊ノ平・塩見岳と縦走して三伏小屋に泊まった。2000年12月27日～30日、Sさんとのあゆむ山の会冬山合宿が印象深い。この年は積雪が多く、三伏峠～塩見岳間をほとんど2人でラッセルし、ラッセル2日目の29日12時によく塩見岳山頂に達した。



塩見岳（本谷山より）2000年12月28日撮影

【荒川岳（悪沢岳）】

悪沢岳は荒川三山の代表で、標高は北岳・間ノ岳に次ぐ南アルプス第3位の重鎮である。悪沢岳には夏1回、冬2回、計3回登った。最初に登ったのは1979年8月9日である。畑薙第一ダム～光岳～聖岳～赤石岳～荒川岳～転付峠～新倉、縦走6日目に山頂に達した。2回目は1987年1月1日である。塩川～三伏峠～小河内岳～荒川岳～樺島～畑薙第一ダム、ラッセルと強風に苦しんで6日目に山頂に立った。3回目は1997年1月1日である。あゆむ山の会冬山合宿（4人）沼平～樺島～赤石岳～荒川岳～樺島～沼平、天気に恵まれ順調に行程が進んで4日目に山頂に立った。



悪沢岳（中岳避難小屋より）1986年12月30日撮影

【赤石岳】

赤石岳は南アルプス南部に威風堂々とそびえている。大好きな南アルプスで1山をあげるとすると、赤石岳を選ぶ。赤石岳には、夏2回、冬2回、計4回登った。最初に登ったのは1979年8月8日である。この時は、聖平から聖岳を越えて夕方の山頂に立った。そよかぜが気持ち良い山頂で、静かなひとときをすごした。この時から、冬の赤石岳に立

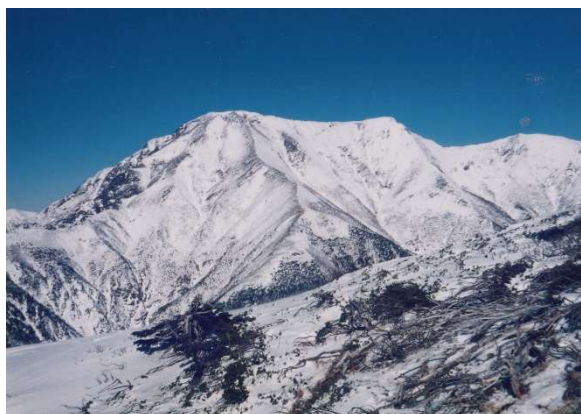


赤石岳（小赤石岳より）1987年12月29日撮影

つことが夢となった。1986 年には三伏峠からめざしたが、荒川岳までで断念。それが実現したのは、1987 年 12 月 29 日だった。大沢岳を越えて百間洞にテントを張り、そこから往復した。入山して 4 日目にあこがれの白い山頂に立った。あゆむ山の会に入ってから、冬山合宿で大倉尾根を登り 1996 年 12 月 31 日、夏山合宿で赤石沢を遡行し 1998 年 8 月 13 日に山頂に立った。

【聖岳】

聖岳は本州最南端の 3000m 峰である。聖岳の最も美しい姿は、大井川対岸の策ヶ岳からであろう。11 月、新雪をまとった聖岳は孤高の姿であった。聖岳には夏 1 回、冬 3 回、計 4 回登った。最初に登ったのは 1979 年 8 月 8 日である。前日、雨のため聖平小屋で停滞。当日は聖平小屋を朝早く出発し、7 時過ぎに聖岳山頂に立った。霧がしだいに晴れて、目の前に赤石岳が現れた時は感動した。1997 年 12 月 28 日～1998 年 1 月 3 日、あゆむ山の会冬山合宿が印象深い。A パーティー（聖岳東尾根～茶臼岳）私を含む 6 人と B パーティー（光岳～聖岳）MCL を含む 4 人が 1 月 1 日聖岳山頂で集中に成功した。



聖岳（上河内岳への縦走路より）
1998 年 1 月 2 日撮影

【池口岳】

池口岳は南アルプス深南部への北の入り口の山である。南峰・北峰の均整とれた姿、深南部の山ではひととき高い標高を誇り、深南部の雄である。池口岳には秋 8 回登った。最初に登ったのは 1988 年 9 月 23 日である。池口部落の遠山宅から登り、池口岳北峰にテント泊。翌日は雨の中、南峰を往復して光小屋泊。翌々日は大雨の中易老度へ下山したが、飯田線が不通のため平岡泊まりとなった。1998 年 10 月 31 日～11 月 3 日、あゆむ山の会の Ko さん、Kn さん、M さんとの中ノ尾根山～合地山～千頭山～池口岳が印象深い。合地山東尾根の太古の森、千頭山登山口の焚火での宴を思い出す。



池口岳（ガラナギより）2017 年 11 月 3 日撮影

【大無間山】

大無間山は光岳から派生する、大井川・寸又川の分水嶺にあって、東西にどっしりと稜線を張っている。「ダイムゲンサン」は重厚な言葉の響きがある。大無間山には秋 4 回登った。

最初に登ったのは1983年11月4日である。前日、鉄道とバスを乗り継ぎ田代から小無間山泊。当日は大無間山を経て大樽沢橋から寸又川右岸林道を通して寸又峡へ下山した。一等三角点のやぐらの上から南アルプスの山々が見えて感動した。1993年10月28日～31日、光岳～信濃俣～大無間山～風イラズが印象深い。所々道を捜しながら4日間登山者に会わず、鹿の鳴き声が友の静かな山行だった。



大無間山（2110峰より）2008年10月13日撮影

【黒法師岳】

黒法師岳は×印の一等三角点がある目立った山である。黒法師岳には南アルプス深南部縦走の起点や終点として秋4回登った。最初に登ったのは1991年11月3日である。この山行はT氏と2人だった。前日、山犬段から高塚山を往復して千石平泊。当日は房小山、バラ谷の頭を経て、黒法師岳に登り、ヒコーキ平へ下って泊。翌日、前黒法師山から寸又峡温泉へ下山した。1992年10月31日～11月3日、T氏との黒法師岳～不動岳～中ノ尾根山～鶏冠山～池口岳が印象深い。3時間かかった鎌ナギの通過、深南部のオアシスである鹿ノ平、黒沢山付近のヤブコギを思い出す。



黒法師岳（バラ谷の頭より）1995年11月4日撮影

【策ヶ岳】

策ヶ岳は北岳から南下して安倍山稜に連なる白根南嶺の中ほどにあり、顕著な大策・小策の双耳峰を見せている。策ヶ岳には秋3回登った。最初に登ったのは1981年11月15日である。畑薙第一ダムから中ノ宿、所ノ沢越、布引山経由で策ヶ岳山頂に立った。新雪の聖岳などの南アルプスの山々と富士山の展望が素晴らしかった。1989年10月7日～10日、池ノ平～青薙山～策ヶ岳～転付峠が印象深い。山行2日目、にわか雪が降る中で布引山泊。同宿した浜松山岳会の人と山の話をした。夜は冷え込みコンロを燃やして暖をとった。3日目は快晴の中、策ヶ岳から転付峠まで縦走した。ニュースで10月8日に立山での大量遭難の事件があったのを知った。



策ヶ岳（偃松尾より）1989年10月9日撮影

＜その他＞

豪雪地帯の頸城山塊、東京・埼玉から近い奥秩父、豊富な自然が残っている白山山系、ふるさとの名古屋から近い鈴鹿山脈など、印象深い山 11 山について感想を述べる。

【火打山】

火打山は頸城 3 山の中では標高が最も高く、高谷池から望む火打山はお姫様のように美しい。火打山には、春 5 回、夏 1 回、秋 1 回、計 7 回登った。最初に登ったのは 1978 年 9 月 24 日である。笹ヶ峰から入山し、高谷池ヒュッテに宿泊して火打山を往復した。紅葉の最盛期で、ナナカマドの赤、ダケカンバの黄、湿原の黄金、青い空、白い霧と素晴らしかった。ヒュッテの管理人の T さん夫婦（赤ちゃん含む）と話しをして、高谷池ヒュッテを好きになった。その後、3～4 月のスキー山行で、開放されている高谷池ヒュッテに何度も宿泊した。その中で 1993 年 3 月 28 日、4 回目の挑戦で火打山～澄川の大滑降を達成した山行が印象深い。広大な斜面はモナカギみであったが、標高 1800m 付近から標高 940m 付近まではザラメの滑降を楽しんだ。



火打山（高谷池付近より）1993 年 3 月 27 日撮影

【雲取山】

雲取山は東京都の最高峰で人気が高い。雲取山には、夏 4 回、秋 1 回、冬 1 回、計 6 回登った。最初に登ったのは 1978 年 11 月 1 日である。三峰ロープウェイ山頂駅から霧藻ヶ峰、雲取山荘に宿泊して山頂を往復した。当時の山荘は町営で宿泊料金が安く、夕食のメインデッシュはチルドハンバーグだった。翌日は飛龍山、笠取山へ縦走して笠取小屋に宿泊した。1988 年 12 月 10 日～11 日、T 氏との奥多摩駅～雲取山～飛龍山～丹波が印象深い。1 日目の昼前から腹が痛くなり 2 度下痢した。忘年山行なので山荘ではビールとウイスキーで戸部氏と歓談した。2 日目の昼前から熱があるのがわかり、丹波にへろへろで下山した。帰りの列車の中では体がゾクゾクして寒気がした。月曜日に職場に出ると私と同じような症状になった人が 4 人いて、金曜日の夜に職場で食べた生ガキに当たったことが判明した。



雲取山（小雲取山付近より）1988 年 6 月 18 日撮影

【和名倉山】

和名倉山は大洞川と滝川に挟まれ、奥秩父主脈から北に延びる稜線上に堂々とした偉容を横たえている。和名倉山には、夏 2 回、秋 2 回、冬 1 回、計 5 回登った。最初に登ったの

は1987年11月15日である。前日、三ノ瀬から入山し、将監小屋から唐松尾山を往復。当日は山ノ神土から北に延びる尾根をたどって和名倉山に登った。登山道は刈り払いされてなく、所々ヤブが深かった。1991年にあゆむ山の会に入ってから、大洞川流域と滝川流域の沢へ度々訪れた。沢登り後の下山道として二瀬尾根を使った。和名倉山の山頂は縦走路から東に外れているため、沢登りのついでに登ったのは3回しかない。1993年10月23日、大洞川市ノ沢を遡行し、和名倉山山頂のカヤトの広場で泊まった山行が印象深い。



和名倉山（御殿岩より）1987年11月14日撮影

【甲武信ヶ岳】

甲武信ヶ岳は、山梨県（甲斐）、埼玉県（武州）、長野県（信濃）の境界にあり、笛吹川の上流東沢・釜ノ沢、荒川の上流真ノ沢、千曲川の上流西沢の流れを育んでいる。甲武信ヶ岳には、夏2回、秋4回、冬1回、計7回登った。最初に登ったのは1977年11月4日である。前日、瑞牆山を往復して富士見平小屋泊。当日は暗い中出発して、8時頃から降り出した雪の中、金峰山、国師岳、甲武信ヶ岳の山頂を踏んだ。1981年12月27～30日、初めての泊まりの冬山である十文字峠～甲武信ヶ岳～雁坂峠が印象深い。冬山完全装備で山に入ったが、雪がほとんどなかったため、夏のコースタイムで歩くことができた。



木賊山、甲武信ヶ岳（西破風山より）
1989年9月10日撮影

【富士山】

富士山は大きさ、高さ、美しさが日本一の山である。また、日本のシンボルの山である。富士山には5月中旬～6月上旬にスキーを背負って7回、無雪期の9月と10月に1回、計9回登った。標高が高いため残雪が遅くまで残り、スキー収めの山として多くの山スキーヤーに知られている。当時のこの時期は300～400人の登山者があり、ほとんどがスキーを背負っていた。標高差1400mの登りはたいへんだが、大斜面の豪快な滑降はすばらしい。最初に登ったのは1989年6月4



富士山（富士宮口新五合目より）
1989年6月4日撮影

日である。富士宮口の新五合目から往復した。登りはスキーを背負って測候所がある剣ヶ峰まで4時間40分、下りはスキー滑降で1時間25分だった。ザラメ雪の大斜面の滑降に大満足した。

【八ヶ岳（赤岳）】

八ヶ岳は中央線や中央高速道から全容が望まれ、ビギナーからベテランまで多くの登山者に人気がある。八ヶ岳主峰の赤岳には秋2回、冬4回、計6回登った。最初に登ったのは1978年10月17日である。小淵沢～編笠山～赤岳～東天狗岳～横岳～蓼科山～プール平の2日目に登頂した。山頂からは富士山、北・中央・南アルプスなどの高峰すべての展望があった。キレット小屋、高見石小屋、双子池ヒュッテに泊まった3泊4日の縦走で、天気にも恵まれ充実した山行だった。1992年1月11日～13日、赤岳～権現岳～編笠山が印象深い。2日目の青年小屋で、当時雪山縦走の第1人者であるHさんと同宿し、今までの山の話やこれからの計画などを聞かせてもらった。



赤岳（権現岳より）1992年1月12日撮影

【笈ヶ岳】

笈ヶ岳は白山連峰の北、石川・富山・岐阜の三県が境を接する所にそびえる秀峰である。登山道がないため残雪期しか登れず、山深いこともあって300名山の中で登るのが一番難しいと思う。笈ヶ岳には2回登った。1回目は1991年5月5日である。ブナオ峠～大笠山～笈ヶ岳～野谷庄司山の3日目に登頂した。季節外れの大雪が降り、ツボ足でラッセルをしたため行程がはかどらず、三方崩山までの計画を断念し、野谷庄司山で下山した。2回目は2006年5月4日である。Iさん、Kさんとのあゆむ山の会春山合宿、ブナ尾山～笈ヶ岳～大笠山～ブナオ峠の2日目に登頂した。天気にも恵まれ、展望とお酒を満喫した山行だった。



笈ヶ岳（ブナ尾山より）2006年5月3日撮影

【白山】

白山は古来より日本三名山と伝えきている信仰の山である。毎年、夏に大勢の人が訪れるが、本峰から少しはずれると、静かで驚くほど豊かな自然が残っている。北の大笠山・笈ヶ岳、南の別山・野伏ヶ岳を含む白山連峰は長大で変化に富み、南北アルプスにはない静けさがある。転勤で3年間名古屋市に住んだことから、何度も白山山系を訪れ、加賀禅定道など

の登山道をほとんどトレースした。白山主峰である御前峰には、春2回、夏2回、秋1回、計5回登った。最初に登ったのは1981年8月15日である。この時は2泊3日で別山を越えて石徹白まで縦走した。ハクサンコザクラなどの高山植物が美しかった。1989年5月2日～7日、三方岩岳～白山～赤兎山が印象に残っている。延々と続く笈ヶ岳などの北方稜線の山の展望、標高差があり急傾斜の大汝峰の登り、登山者が満員の室堂、雨の赤兎山などを思い出す。



剣ヶ峰、御前峰（大汝山より）2011年5月4日撮影

【野伏ヶ岳】

野伏ヶ岳は白山連峰の南端にあり、石徹白を取り囲む山の中で、東の芦倉山、大日ヶ岳と対峙している。標高1100mの和田山牧場跡から望む雪をまとった白山南方の山々は、雲の平、涸沢から望む北アルプスの山々のように美しい。野伏ヶ岳には春5回登った。最初に登ったのは、あゆむ山の会春山合宿（5人）の2008年4月12日である。山頂からは三ノ峰～大日ヶ岳が立派で、遠く白山の展望があった。2015年4月25日～26日、野伏ヶ岳～願教寺山が印象深い。この山行で、石徹白集落を取り囲む馬蹄形のトレースが完成した。



野伏ヶ岳（和田山牧場跡より）2010年4月10日撮影

【藤原岳】

藤原岳は鈴鹿山脈の北部にある石灰岩の山で、山頂付近はカルスト地形独特の景観を呈している。名古屋市から近い鈴鹿山脈は私を山登りに導いてくれたふるさとの山である。藤原岳には、春3回、秋1回、冬3回、計7回登った。最初に登ったのは1974年10月11日である。大貝戸道を登って、聖宝寺道を下山した。天狗岩から白瀬峠を目指したが、登山道が分からず引き返した。2015年5月5日～6日、藤原岳～竜ヶ岳～御在所岳が印象深い。連日10時間行動の強行軍だったが、初めて立った山頂（銚子岳、静



藤原岳（藤原山荘より）2015年5月5日撮影

ケ岳、三池岳、金山）があり、天気恵まれ充実した2日間だった。

【宮之浦岳】

宮之浦岳は屋久杉で有名な屋久島にあり、九州の山の最高峰である。宮之浦岳には 1979 年 4 月 16 日に登った。屋久杉ランド～花之江河～宮之浦岳～楠川の 2 日目だった。雨が多い屋久島であるが、山頂に立った時は晴れて、永田岳などいくつもの山が展望できた。海は見え、ここが島であることを忘れてしまいそうだった。高塚小屋から下山の途中に縄文杉と出会った。限りない生命力で天にそびえている縄文杉を見て、涙が出るほど感動した。現在は世界自然遺産に登録され多くの登山者が訪れるが、2 泊 3 日の山行中 1 パーティーと出会っただけだった。



宮之浦岳（永田岳分岐より）1979 年 4 月 16 日撮影